

修復腎移植を考える超党派の会

趣意書

昨今、修復腎移植の是非が大きな社会問題となっておりますことをご案内の通りです。

移植を容認する立場からは、「患者の生命を救うための医療行為であり患者に不満の声はなく、海外でも多くの同様の事例が存在し、かつ高い評価を得ている」との見解が示されております。

他方で、医学的に問題ありとする立場からは、「インフォームドコンセントや倫理面で問題があり、移植した腎臓の生着率や患者の生存率が劣り、修復腎移植は医学的に妥当性がない」との主張がなされております。

このように異なった見方が存在するなかで、中立かつ客観的な立場から両者の見解を検討し、この問題の適切な方向性を追求していくことは国会議員としての責務であると考えます。

そこで我々有志議員が協議し「修復腎移植を考える超党派の会」を設立致しました。多くの議員の皆さま方のご入会をよろしくお願い致します。

平成二十年二月二十一日

発起人 島村宜伸 深谷隆司 杉浦正健 竹本直一 平沢勝栄

衛藤晟一 佐藤信秋 山田正彦 松木謙公 家西悟

福島豊 山本博司 (順不同、敬称略)

議員各位